

新川・駒場のエレベーター有住宅、旭改良住宅

部屋は空いているはずなのに、入居できない

決算審査で厳しく追及

5年度決算審査の中で、村上議員は、エレベーターが付いていて、申込も多い、新川・駒場の住棟と旭改良住宅の入居の問題を取り上げました。この表が5年度の申込

入居が終わった
時点の空き住宅

5年度の申込と入居、空き家の戸数						
		全戸数	申込	入居	空き室	使用不可
新川・駒場	単身用	116	48	7	20	4
	一般用	267	2	3	37	4
旭改良住宅	単身用	96	38	4	15	4
	一般用	92	4	1	11	1



(6年5月末現在)

新川・駒場の申込・入居には、エレベーターのない胸の分も入っています。ただし、空き室はエレベーターのある棟だけの集計です。
新川・駒場の単身の空き家には車いす専用8戸も含まれます。

と入居の結果です。



78戸も入れなかったのに

新川・駒場の単身の場合、48戸が申し込んで7戸しか入れませんでした。しかし、入居がほぼ終わった時点で20戸の空き(傷みが激しく使えない4戸、車いす専用8戸含む)が残りました。少なくともあと8戸は入居できたはずですが、同様に、旭改良住宅でも入居が終わった後に、単身11戸、一般で10戸の空きが残りました。多くの入居できなかった人がいるのに、空きが残っても入れない。どうなっているのでしょうか？

市の説明を聞いても？

その理由を聞いても、「退去したのに家財を残していった部屋もある」「空いたばかりの部屋もある」「斡旋まで時間がかかる」などと説明しましたが、それが大部分とは思えません。空き部屋一つ一つについて、いつから空いたのか、貸せない理由は何かを一覧にしてほしいと半年も前に要求したのに、「それでは個人が特定され個人情報保護で問題になる」と、資料作成を断ってきたのは市の側でした。



「空いていても、修理していなかったのではないか」と聞くと、6年5月末の空き家で入居させるための修

繕が完了していたのは、「単身で新川・新川・駒場で1戸、旭はゼロ」と答えました。これでは入居できなかったは当たり前ではないでしょうか。ただし、そのあとには修繕は進んだようですが・・・

修繕費の増額は拒否

「入居修繕費を増やせば、入居件数を増やせるはず」と追及すると、「業者数も減って人手不足。住宅修繕は3、4社しか手掛けておらず、ノウハウも必要。金額を増やしても修繕戸数は増やせない」と答弁しました。人手不足は広くありますが、安定して工事が増えて、十分な工資が保障されるなら、業者も前向きになれるのではないのでしょうか。

この機会に、より多くの業者に市営住宅の修繕工事を担っていただけるよう真剣に検討すべきです。

24. 10. 10
村上かずしげ通信



発行 共産党市議団 23-5212